

④ 梶原景時の墓

深沢小学校の東側の崖にある槽内に、梶原景時とその一族の墓とされる五輪塔四基がある。景時は、石橋山の合戦で平家方の総大将大庭景親について、頼朝を梶山に追いつめた。しかし密かに頼朝に傾倒していたので、杉の穴の中に頼朝が潜むのを知りながら、「何も無い。あるのは蜘蛛の巣ばかり」と言って、景親からかくまった。そのためか、後に源氏に従うと頼朝に重用された。『吾妻鏡』が「文筆に携らずといえども言語を巧みにするの士なり」と評するように、景時は政治の才にたけ、頼朝の懐刀として千葉介広常の謀殺・義経の失脚など、良くも悪くも大きな働きをした。

(見学は要問合せ。深沢小学校 ☎0467-44-1226)



⑤ 仏行寺・源太塚

明応四年(1495)に寂した仏行院日秀が開山上人となって創建。本尊は十界の曼荼羅。春にはツツヅが見どころの寺院である。源太塚は仏行寺境内の山上にあり、梶原源太景季(かじわらげんたかげすえ)の片腕が埋められてあると伝えられている。

景季は梶原景時の長子で、木曾義仲追討戦の時、佐々木高綱と宇治川で先陣争いを行い、数多の戦功をあげた。頼朝の死後、父とともに鎌倉を追われ、駿河国清見関で戦死。それを聞いた妻の信夫(しのぶ)は深く悲しみ、この山で自害し夫のあとを追った。以来、信夫が夫を慕って泣く声が毎夜聞こえるようになったため、その霊を慰めるために建てられたのが仏行寺だという。※拝観料は100円



⑥ 熊野神社

手広の鎮守。祭神は伊弉冉命(いざなみのみこと)、事解男神(ことさかのおのかみ)、速玉男神(はやたまのおのかみ)。宝積院が別当寺をつとめた関係で本地仏は如意輪観音であったという。慶安元年(1648)の棟札には「別当宝積院」と見え、『新編相模風土記稿』にも「宝積院持」とある。例祭の日に社殿の鰐口(社殿や仏堂につるされている金属製の音響具)を叩くと、「どんどん」という音がして神様が出てくるという伝説がある。社殿に棲みついた「てん」が音に驚いて飛び降りてくるので、このような伝説ができたとされている。

(参考『かまくら子ども風土記』)



⑦ 青蓮寺・鎖大師

開山を空海、善海を中興開山とする。かつては三十近い末寺があり、江の島の寺も青蓮寺の末寺だったといわれる。本尊の弘法大師像は国指定の重要文化財。通常は非公開だが、年に5回ほど定期的に開帳されている。写実的彫刻で、水晶の爪の下に朱で血を表したり、膝が鎖で動くなどの工夫があり、このため俗に「鎖大師」と呼ばれている。これは信者が求めればどこでもすぐに赴く姿とされる。寺伝によれば、弘仁七年(816)、大師が嵯峨天皇の命で行脚に発つ際、己の等身大の像を彫り、自身の衣や念珠などを付け天皇に献上した



ものという。天皇死後、大和国の岡寺に移された後、鶴岡八幡宮に移された。明治期、神仏分離令のため松源寺へ、更に寿福寺と転々とし、ようやく落ち着いた。

青い蓮華 (MAP-⑦)

弘仁十年頃、弘法大師が深沢近くを通ると、手広の山に虹が出ていた。そこには小池があり、虹が霧に陽をうけて七色の輪を描いていた。大師は、これは仏が導いた霊地だと、ここに滞在した。

或る日、天女が現れて大師の手伝いを始めた。しばらく後、祈禱が結願したと天女に伝えると、天女は宝冠から一粒の仏舍利を出し、「これを有縁の地に納めて下さい。私は南の島で仏のお告げを待ちます」と言うと、池から昇る霧の中に消えていった。

その翌朝、南の池には青い蓮の花が美しく咲いていた。思い立った大師は、早速南の島・江の島で護摩をたき、その灰で弁天を作ると、再びこの地に戻り真言修法の霊地として一寺を建てた。この出来事にちなんで、青蓮寺と名付けたという。『鎌倉歴史文学散歩』より



江の島・鎌倉モノさんぽ 湘南深沢駅～西鎌倉駅

発行：湘南モノレール株式会社 〒248-0022鎌倉市常盤18
TEL.0467-45-3181 URL <http://www.shonan-monorail.co.jp>

江の島・鎌倉モノさんぽ

沿線歩きで、楽しんで発見!



- 大船
- 富士見町
- 湘南町屋
- 湘南深沢
- 西鎌倉
- 片瀬山
- 目白山下
- 湘南江の島

湘南深沢駅～西鎌倉駅

【全コース：約5.5km・約2.5時間※移動分のみ】

鎌倉山ウォーク

湘南深沢駅 ▶ 大慶寺 ▶ 駒形神社 ▶ 御霊神社 ▶ 深沢小学校(梶原景時の墓) ▶ 仏行寺(源太塚) ▶ 三島神社 ▶ 夫婦池公園(水辺のさんぽ道・森のさんぽ道) ▶ 鎌倉山碑 ▶ 佐々木信綱の碑 ▶ 鎌倉山ロータリー ▶ 青蓮寺(鎖大師) ▶ 熊野神社 ▶ 茶の子 ▶ レ・シユール ▶ 西鎌倉駅

身近な歴史にふれる

これ知ってる? 日本初の自動車専用道路

大船から西鎌倉を経て江の島に至る道路(市道大船西鎌倉線)があります。現在はこれに沿って湘南モノレールが快走していますが、実は江ノ電(江ノ島電気鉄道株式会社)が、江の島と大船を結ぶ鉄道を計画していたルートにあたります。これと競合したのが日本自動車道株式会社の自動車専用道路計画でした。そこで両者の調整に注目されたのが、日本自動車道事業の中心人物・菅原通済氏でした。彼が江ノ電の役員に就任したため、日本自動車道株式会社は江ノ電の関係会社に。そのため、鉄道計画が廃止されました。こうして大船一片瀬間の「貸取り自動車専用道路」、現代風にいえば『有料自動車専用道路』は昭和5年8月24日に開通しました。



◎ 湘南モノレール

